

住む町を知る

「川俣町をもっと盛り上げたい」子どもたちのそんな一声から始まった『川俣町を元気にしよう計画』。飯坂小学校の3・4年生が川俣町を盛り上げるために一番最初に始めたのは、「川俣町を知ること」でした。

動き出す気持ち

きっかけは一枚の写真。そこには町中がたくさんの人で溢れている昭和初期の川俣町の様子が写し出されていました。その写真を見た子どもたちからは「昔はすごい盛り上がりがあったんだね」「お祭りのときみたいに人がいる」そんな声とともに「今の川俣町もこの写真の頃のように元気にしたいね」と言った声も聞こえてきたそうです。

そんな声に応えるため、総合的な学習の時間において授業を始めたのは、飯坂小学校の鈴木俊樹先生。鈴木先生は「子どもたちが自分たちの住む町のよさを見つけ、



飯坂小学校3・4年生担任
としき
鈴木 俊樹 先生

考え、そして伝える活動をする中で、川俣町のよさや町づくりに関わる人たちの思いや願いに気付くとともに、自分たちの住む町のためにできることは何か、町のために進んで行動してもらいたいと思った」と話します。

川俣町を知る

子どもたちが町を元気にするために考えたのは、壁新聞やリーフ



◁きっかけとなった昭和初期の川俣町（現在の瓦町）の写真。子どもたちが町中でラジオ体操を行っている様子が写っている。

Interview



飯坂小学校 4年

佐藤 丈士 さん(飯坂)



飯坂小学校 4年

佐藤 麻結 さん(飯坂)

仙 臺屋には古閑裕而さんの弾いたオルガンがあったり、昔はたくさんの外国人が川俣町に来ていたという話を聞きとても驚きました。また、嶋原風呂桶店さんのような珍しい仕事をしている人もいて、町には魅力的な人や建物がたくさんあるので皆さんに知ってもらいたいと思います。

実 際に町中を歩いてみると古閑裕而さんが住んでいた旧ちりめん屋や数十種類の飴がある竹屋、旧高橋家のような江戸時代からある建物が残っていたりと、初めて知る人やモノがたくさんあって驚きました。これからもっと川俣町について知って川俣町が元気になるように頑張りたいです。

レットを作成し、校内外に向けて町の魅力を発信すること。子どもたちは早速、オンライン取材や文通、町中探索などを通して町について調べ始めます。取材した人は計15名、絹産業を主に取り上げてきた例年と違い、幅広い試みだと鈴木先生は言います。それでも鈴木

先生は「こんな時だからこそたくさんの人と関わり、その経験を大切にしてほしいんです。町を知るためには、人についても知らないといけない。「もの」だけじゃなくてどんな思いでこの町の「ひと」「こと」があるのか、子どもたちには知ってほしい」と優しく語ります。

③



②



①高橋家住宅で昭和初期の川俣町の様子を聞いた②町で取材した情報を整理する様子③齋栄織物株式会社へ zoom を使って取材をした④竹屋菓子店への聞き取り取材⑤仙臺屋呉服店にある古閑裕而氏が弾いたオルガンを見せてもらった

⑤



④

